

今月の
トピックス

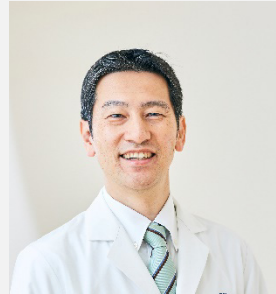
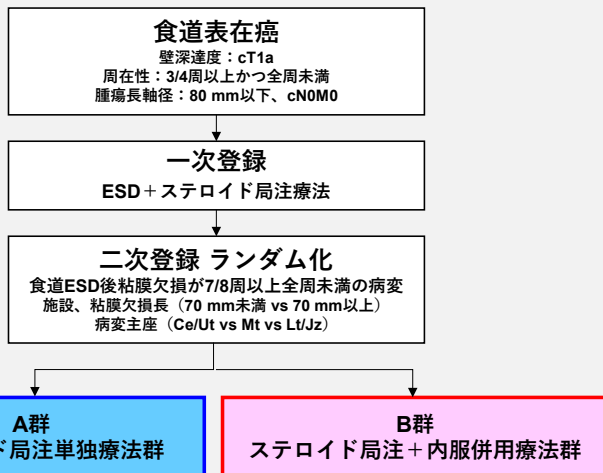
JCOG2315 消化器内視鏡グループ 新規試験

JCOG消化器内視鏡グループの新しい臨床試験であるJCOG2315「広範な食道表在癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄予防を目的とするステロイド局注+内服併用療法およびステロイド局注単独療法のランダム化比較第III相試験(E-COMBI)」が承認されました。本研究の立案、プロトコル作成から承認までJCOG消化器内視鏡グループ、JCOGデータセンター/運営事務局、プロトコル審査委員会の先生方、多くの皆様の多大なるご指導、ご支援を頂き、この場を借りて心より御礼申し上げます。

JCOG消化器内視鏡グループは2011年に発足し、早期消化管癌に対する内視鏡治療を中心にエビデンスを積み上げ、低侵襲治療の確立に貢献して参りました。

食道癌では、内視鏡治療の適応を拡大する際に治療後「再発」と「狭窄」が懸念点となります。内視鏡治療後の病理診断で非治癒切除と判明した場合、従来は追加で手術が行われてきましたが、手術は侵襲が高いため、低侵襲な治療として予防的放射線療法の開発(JCOG0508)を行い、手術に匹敵する有効性を示したことで現在は標準治療としてガイドラインでも推奨されています。

また、より広範な病変に内視鏡治療が行われるようになり、内視鏡切除後の粘膜欠損が食道の管腔の3/4周を超える病変で、内視鏡治療後に狭窄を来すことがわかってきました。狭窄すると、普通の食事が食べられなくなり、狭窄を解除するために何度も拡張術を行う必要があります。狭窄を予防する方法として、内視鏡切除後にステロイドを局所注射する方法(ステロイド局注療法)と、内視鏡切除後に8週間ステロイドを内服する方法(ステロイド内服療法)の有用性が報告され、全国的に実施されるようになりました。そこで、当グループでは両者を比較する臨床研究(JCOG1217)を行いました。結果、ステロイド内服療法の方が、ステロイド局注療法よりも少し高い無狭窄生存割合を示しましたが、ステロイド内服療法の副作用に代わるほどの差ではなかったため、ステロイド局注療法が標準治療であると結論付けました。



研究代表者 矢野 友規



研究事務局 門田 智裕

しかし、この研究の中で広範な病変に絞った比較で、ステロイド局注療法の有効性が限定的で狭窄を来す患者が多いことがわかり、依然解決できていないことがわかりました。

そこで本試験では、食道癌内視鏡切除後の広範な粘膜欠損(7/8周以上かつ全周未滿)に対する狭窄予防法として、ステロイド局注療法に対して、ステロイド局注+内服併用療法が、primary endpointである無狭窄生存期間において上回るかどうかを検証するランダム化比較第III相試験となっております。

内視鏡切除の弱点である狭窄を予防することで、患者のQOLを保ったまま治癒を達成することができます。万が一、狭窄した場合でも内視鏡的バルーン拡張術を工夫して狭窄解除までの期間を短くするような臨床研究(JCOG2215)を昨年より開始しており、患者のQOLに寄り添った臨床研究を計画するようになってきています。過去の当グループの臨床研究から持ち越したCQを解決すべく、本試験の完遂・成功に向けて、参加施設一丸となって取り組んで参ります。関係の皆様方には引き続き、ご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

JCOG2315 研究代表者 国立がん研究センター東病院 矢野 友規
JCOG2315 研究事務局 国立がん研究センター東病院 門田 智裕

JCOG研究プレスリリース

◇ 大腸がんグループ JCOG1018

JCOG1018試験結果について
国立がん研究センターからプレスリリースされました
<https://jcoag.jp/general/ppic/jcog1018/index.html>
国立がん研究センタープレスリリース2024/9/20

高齢の大腸がん患者さんに対する適正な標準治療を証明

◇ 肝胆膵グループ JCOG2107E

JCOG2107E(医師主導治験)開始について
国立がん研究センターからプレスリリースされました
国立がん研究センタープレスリリース2024/09/19

全国10施設で免疫チェックポイント阻害薬上乗せ効果を検証する第III相医師主導治験開始

JCOG研究の論文公表



◇ 肝胆膵グループJCOG1202A1 光永 修一 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39318258/>

5-Fluorouracil metabolic pathway genes predict recurrence risk following adjuvant S-1 therapy: Results of an ancillary analysis from a phase III trial of resected biliary tract cancer (JCOG1202A1), Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences, 2024 Sep 25. Online ahead of print.

◇ 食道がんグループ JCOG0502S3 山本 駿 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39331122/>

Factors influencing decision-making between surgery and chemoradiotherapy for esophageal carcinoma from the JCOG0502, Future Oncology, 2024 Sep 27, Online ahead of print

◇ 大腸がんグループ JCOG0603S2 高見澤 康之 先生

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0923753423026376>

The impact of surgical invasiveness on the efficacy of mFOLFOX6 in resected colorectal liver metastasis: An exploratory analysis of JCOG0603, Annals of Oncology, 2023 Oct.

◇ 医療経済小委員会 脳腫瘍グループ 本村 和也 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39223700/>

Cost of medical care for malignant brain tumors at hospitals in the Japan Clinical Oncology Group brain-tumor study group, Japanese Journal of Clinical Oncology, 2024 Sep 2, Online ahead of print

◇ 放射線治療/頭頸部がんグループ JCOG1912デザインペーパー 横田 知哉 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/37932681/>

Novel approach of prophylactic radiation to reduce toxicities comparing 2-step40 with 56-Gy simultaneous integrated boost intensity-modulated radiation therapy for locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck, an intergroup phase III trial (JCOG1912, NEW BRIDGE), BMC Cancer, 2023 Nov.

◇ 脳腫瘍グループ JCOG2209デザインペーパー 関野 雄太 先生

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39292165/>

Protocol digest of a phase III randomized trial of gross total resection versus possible resection of fluid-attenuated inversion recovery hyperintense lesion on MRI for newly diagnosed supratentorial glioblastoma: JCOG2209 (FLAMINGO), Japanese Journal of Clinical Oncology, 2024 Sep 17, Online ahead of print

担当医別月間登録数



◇ 肺がん外科グループ(月間登録数:5)

遠藤 誠先生/山形県立中央病院

◇ 胃がんグループ(月間登録数:5)

早田 啓治先生/和歌山県立医科大学

◇ 食道がんグループ(月間登録数:2)

吉井 貴子先生/埼玉県立がんセンター

小柳 和夫先生/東海大学医学部

安部 哲也先生/愛知県がんセンター

藤原 尚志先生/東京科学大学病院

◇ 乳がんグループ(月間登録数:2)

船坂 知華子先生/国立がん研究センター東病院

◇ リンパ腫グループ(月間登録数:2)

山内 寛彦先生/がん研究会有明病院

高橋 寛行先生/神奈川県立がんセンター

永田 泰之先生/浜松医科大学

◇ 大腸がんグループ(月間登録数:3)

安達 智洋先生/広島市立北部医療センター安佐市民病院

◇ 肝胆膵グループ(月間登録数:4)

亀井 敬子先生/近畿大学病院

(担当医別最多登録数が1例のグループは割愛しています)

グループごと月間登録数



登録数月次レポート

<https://secure.jcog.jp/DC/DOC/member/report/index.html>

グループ	7月	8月	9月	合計
肺がん外科	93	63	56	212
胃がん	29	53	43	125
大腸がん	45	30	26	101
リンパ腫	30	28	14	72
食道がん	30	16	22	68
肝胆膵	20	21	21	62
肺がん内科	20	10	7	37
放射線治療	9	17	11	37
頭頸部がん	14	9	9	32
消化器内視鏡	8	10	8	26
泌尿器科腫瘍	5	10	7	22
脳腫瘍	4	10	7	21
乳がん	5	3	6	14
皮膚腫瘍	5	6	1	12
骨軟部腫瘍	3	5	2	10
婦人科腫瘍	0	0	0	0
合計	320	291	240	851



JCOGデータセンターより

● 2024年9月の登録例は240例でした

9月は全体的にどのグループも低調で240例の登録でした。各グループで登録試験が終了していることや、9月は休日が多かったことも影響しているようです。

また10月は積極的なご登録をお願いいたします。

